

海南病院では医療安全対策に関する事案の包括公表を行っています。

1. 目的

: 患者の知る権利を保障し医療の透明性を確保するため、更に職員に医療安全の意識の向上と事故の再発防止に役立てることを目的とする。

2. 対象

: 報告の対象となるものは、患者の生死にかかわる極めて重大なものに限らず、院内で発生したすべてのインシデント・アクシデント、予期しない薬剤などによる重大な副作用や、広く社会に警笛を鳴らす意義が大きいと考えられる報告もその対象としている。

3. (公表基準に基づき、令和1年度集計結果を公表。)

1) 事象レベル

事象レベル	傷害の継続性	傷害の有無	傷害の程度
レベル 0.01	なし	なし	仮に実施されていた場合、患者への影響は小さかった(処置不要)と考えられる
レベル 0.02	なし	なし	仮に実施されていた場合、患者への影響は中程度(処置が必要)と考えられる
レベル 0.03	なし	なし	仮に実施されていた場合、身体への影響は大きい(生命に影響しうる)と考えられる
レベル 1	なし	なし	患者への実害はなかった(何らかの影響を与えた可能性は否定できない)
レベル 2	一過性	軽度	処置や治療は行わなかった(患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた)
レベル 3 a	一過性	中等度	簡単な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の抱合、鎮静剤の投与など)
レベル 3 b	一過性	高度	濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長)
レベル 4	永続的	高度	永続的な障害や後遺症が残った
レベル 5	死亡		死亡(原疾患の自然経過によるものを除く)

2) 令和1年年度 医療安全報告件数

事象レベル	0.01～3 b	レベル 4～5
報告件数	3937 件	1 件

3) 令和1年年度 事象別分類

事象内容	令和1年度件数	構成比	30年度件数	増減対比
薬剤関連	929	23.6%	906	23
輸血	23	0.6%	15	8
治療・処置	239	6.1%	214	25
医療機器・用具	98	2.5%	86	12
ドレーン・チューブ	858	21.8%	847	11
検査関連	271	6.9%	279	-8
療養上関連	1345	34.2%	1463	-118
物品搬送	0	0.0%	2	-2
診療情報管理	153	3.9%	238	-85
患者・家族の説明	20	0.5%	28	-8
施設・設備	1	0.0%	6	-5
その他	1	0.0%	0	1
合計	3938	100.0%	4,084	-146

5. まとめ

令和1年度は医師・研修医からの報告件数が増加し、職員の安全に対する意識が向上していると考えられた。

しかし、気管カニューレに関わる事例が3件発生し、うち1例はレベル5に至った。対策を講じていても防ぐことができなかったことを、病院として重く受け止め、医療事故再発防止の提言として、医療事故調査支援センターより発信されている「気管切開術後早期の気管切開チューブ逸脱・迷入に係る死亡事例の分析」の提言に基づき、外部の専門家に意見を仰ぎ、M&Mカンファレンス開催し、事例を共有し、更に安全体制の構築に取り組んだ。

これからも、安全・安心な病院として、地域の皆様に信頼を得られるよう取り組んでいく。